

漢文句法「累加」確認テスト（不唯～亦） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 ただニこれを学ぶのみならず、また之（これ）を行ふ。

問2 ただこれを学ぶだけでなく、その上これを実行する。

問3 ただニ吾（われ）之を憂ふるのみならず、衆人も亦（また）之を憂ふ。

問4 自分だけがそれを心配しているのではなく、多くの人もまたそれを心配している。

問5 賢い者がそれを知っているだけでなく、愚かな者もまたそれを知っている。

問6 ただニ己（おのれ）を利するのみならず、また人を利す。

問7 自分の利益になるだけでなく、その上他人の利益にもなる。

問8 ただ無益であるだけでなく、その上それを害する（かえって害になる）。

問9 ただニ之を言ふのみにあらず、必ず之を行ふ。

問10 ただそれを口に言うだけでなく、必ずこれを実行する。

問11 ただ自分だけがそれを知っているのではなく、人々はみなそれを知っている。

問12 ただ賢い者だけがこの心を持っているのではなく、人はみなこの心を持っている。

問13 どうしてただそれを心配するだけであろうか、いや、その上それを恐れてもいる。

問14 どうしてただ自分だけであろうか、いや、人々もまた同じである。

問15 ただ自分自身のためにするだけでなく、その上国のためにもする。

問16 ただ貧しいだけでなく、その上身分も低い。

問17 ただ（ニ）。「唯」は「ただ（ニ）」と読み、限定「～だけ」を表す。これを「不」で打ち消して「ただニ～ノミナラズ（～だけではなく）」となる。

問18 また。「亦」は「また」と読み、前半の「不唯（～だけでない）」と呼応して「～もまた」と累加を示す。

問19 ただ（ニ）。「徒」も「唯・独」と同じく限定「～だけ」を表し、「ただ（ニ）」と読む。「非徒～」で「ただニ～のみにあらず（～だけではない）」となる。

問20 ひとり。「独」は「ひとり」と読み、「～だけ」という限定を表す。「非独～」で「ひとり～のみにあらず（～だけではない）」となる。

問21 あニただニ之を憂ふるのみならんや。（「豈～哉／乎」の反語と呼応し、文末を「～ノミナランヤ」と結ぶ。）

問22 (1) 「～だけ」「ただ～のみ」という、範囲をそれ一つに限る「限定」の意味を表す。

(2) 「不・非・豈」で限定を打ち消すことにより、「～だけにとどまらない＝その上…も」という意味になり、限定が累加（付け加え）に転じる。

問23 どちらも「Aだけでなく、その上Bも（成り立つ）」という、前の内容に後の内容を付け加える累加の型を表す。